



# 日本物理学会領域2 運営会議



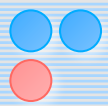
日本物理学会 2012年秋の分科会  
2012年9月19日12時00分～12時45分  
@横浜国立大学 FA会場

## 報告と討論

- 1) 2012年10月からの新役員体制について
- 2) 学生優秀発表賞選考について
- 3) 若手奨励賞(第7回(2013年))選考について
- 4) 2013年年会案内とシンポジウム, 招待・企画講演の提案
- 5) プラズマ宇宙物理3学会合同セッション(2013年物理学会年会)について
- 6) 講演プログラム変更申請について
- 7) 物性分野 領域の略称・表示に関する議論
- 8) PLASMA2014開催に向けて

## 関連報告, その他

- 1) 日本学術会議報告(伊藤早苗教授(九大応力研))
- 2) APPC関係報告(菊池満(原子力機構))



# 報告と討論

# 1) 2012年10月からの新役員体制について

以下3名の方々が2012年9月で任期終了

荒巻 光利 (名古屋大学)  
井 通暁 (東京大学)  
重森 啓介 (阪大レーザー研)



新役員として以下の方々が就任  
(任期は2012年10月から2015年9月まで)

岡本 敦 (東北大学)  
東口 武史 (宇都宮大学)  
横井 喜充 (東大生産研)

平成24年から領域代表、副代表  
任期が4月からに変更

平成25年4月以降の領域代表、副代表  
につき、理事会に推薦(H24.10)



領域代表: 米田 仁紀(電気通信大)、副代表: 齊藤 輝雄 (福井大)  
を推薦したい。

2012年10月からの役員体制(案)は以下の通り

(~2013.3まで)

領域代表 安藤 晃 (東北大学)  
領域副代表 米田 仁紀 (電気通信大学)  
領域前代表 菊池 満 (原子力機構)

(~2013.9まで)

役員 三好 隆博 (広島大学)  
役員 田村 直樹 (核融合研)  
役員 蓮尾 昌裕 (京都大学)

(2014.3まで領域委員、2014.9まで役員)

役員(領域運営委員) 出射 浩 (九大応力研)  
役員(領域運営委員) 永岡 賢一 (核融合研)  
役員(領域運営委員) 宮戸 直亮 (原子力機構)

(2014.9まで領域委員、2015.9まで役員)

役員(領域運営委員) 岡本 敦 (東北大学)  
役員(領域運営委員) 東口 武史 (宇都宮大学)  
役員(領域運営委員) 横井 喜充 (東大生産研)

# 領域2 領域運営委員 役割分担表

役割分担	H24. 10からの担当委員
大会(プログラム編集・会場設定)	出射(副), 宮戸(正), 岡本, 東口
シンポジウム・招待講演・企画講演(3学会世話人を兼ねる)	蓮尾, 三好, 宮戸(副)、出射(正)
3学会合同世話人	三好、永岡、横井
チームとの合同セッション担当	蓮尾(正)、東口、出射
表彰・若手賞	米田(副代表)
学生優秀発表賞	安藤、米田
学生優秀発表賞担当	田村、宮戸、岡本
会計・予算	安藤(代表)
学会連携(2年間)	田中, 古川, 菊池, 安藤, 永岡, 東口
広報(ホームページ)	永岡(正)、横井(副)
メーリングリスト	永岡
編集(JPSJ)	米田
役員会・運営委員会幹事(書記)	田村、岡本

## プラズマ科学連合運営委員会

運営委員長 田中和夫(阪大)

プラズマ・核融合学会 上杉(金沢大), 金子(東北大)

日本物理学会 菊池(JAEA), 古川(鳥取大)

応用物理学会 白谷(九大), 堀 勝(名大), 栗原一彰(東芝)

## 2) 日本物理学会領域2・学生優秀発表賞

### 学生優秀発表賞

物理学会領域2が独自に設けた賞で、物理学の発展に貢献しうる優秀な一般講演発表を行った学生(応募時に学生の身分)の方々に対して授与するもの。

### 2012年年次大会において実施

候補件数 件より 件を表彰

- ・岩田夏弥(京都大学大学院)  
「強集束高強度レーザー場中での相対論的粒子運動と非局所動重力」
- ・小林達哉(九州大学大学院)  
「PANTAにおけるエンドプレートバイアス実験の乱流スペクトル解析」
- ・下村遼(京都工芸繊維大)  
「拡張MHDプラズマ実験用電子プラズマの閉じ込め特性」
- ・Wang Hao(総合研究大学院大学)  
「Nonlinear Frequency Chirping of Energetic Particle Driven Geodesic Acoustic Mode」

### 2012年秋の分科会(本大会)においても継続して実施

他領域(領域1)でも同様の制度を開始。

➡ 物理学会としての表彰制度として制度化を目指す。

# 3) 若手奨励賞(第7回(2013年))選考について

委員長: 居田克巳 (核融合科学研究所大型ヘリカル研究部教授)

副委員長: 米田仁紀 (電気通信大学レーザー新世代研究センター センター長)

審査委員

齊藤輝雄 (福井大学遠赤外線領域開発研究センター センター長)

大野哲靖 (名古屋大学大学院工学研究科 エネルギー理工学専攻 教授)

村上定義 (京都大学大学院 工学研究科 原子核工学専攻准教授)

岸本泰明 (京都大学 大学院 エネルギー科学研究科 エネルギー基礎科学専攻教授)

応募者3名の中から以下の2名を受賞候補者として推薦したい。

—→ 2012年10月の理事会で承認決定。

本田 充 独立行政法人日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門 研究員

トカマクプラズマにおける非両極性径方向電流が引き起こすトルクと径電場の新古典的応答

1. Nucl. Fusion 49 (2009) 035009
2. Nucl. Fusion 51 (2011) 073018
3. Journal of the Physical Society of Japan 80 (2011) 114502

伊神弘恵 核融合科学研究所ヘリカル研究部助教

電子バーンシュタイン波加熱のための電磁波入射及びプラズマ条件の最適化に関する研究

1. Plasma Physics and Controlled Fusion, vol. 46 (2004), 261-275
2. Plasma Physics and Controlled Fusion, vol. 48 (2006), 573-598
3. Nuclear Fusion vol. 49 (2009), 115005

## 4) 2013年年次大会の紹介

○開催場所: 広島大学 東広島キャンパス

○開催日程: 2013年3月26日(火) ~ 3月29日(金)

### 今後の予定

○講演申し込み期間(WEB): 11月2日(金) ~ **11月25日(日)17時**

○予稿原稿締め切り: **1月18日(金)**必着

○講演申し込み数: 1人1件以内

○シンポジウム、招待・企画講演、チュートリアル講演申し込み:  
: 10月5日(金) ~ 10月31日(火)

○キーワード: 領域2HPを参照

○3学会合同シンポジウム(物理学会主催)

## 4) 第68回年次大会での招待・企画講演, シンポジウムの提案状況

### 招待講演

サブテラヘルツ帯2次高調波ジャイロトロンの高出力発振と  
非線形モード間相互作用

講演者: 斉藤 輝雄 (福井大), 提案者: 出射 浩(九大)

### シンポジウム

非平衡極限プラズマダイナミクス —その多様性と普遍性—

提案者: 伊藤 公孝 (核融合研)

乱流が引き起こす角運動量輸送 —実験室プラズマから宇宙プラズマまで—

提案者: 横井 喜充 (東大生産研)

「プラズマ宇宙物理」3学会合同シンポジウム —プラズマ宇宙物理の新展開—

提案者: 三好 隆博 (広大院理)

ビーム物理領域との合同シンポジウム: 高電界粒子加速の展望

その他、提案をお待ちしています。(10月初旬までに)

# 招待講演

## サブテラヘルツ帯2次高調波ジャイロトロンの高出力発振と非線形モード間相互作用

講演者: 齊藤輝雄(福井大) 推薦者: 出射 浩(九大)

LHDの高密度プラズマにおいて協同トムソン散乱計測に適用可能な光源とすべく開発中の0.4 THz帯2次高調波ジャイロトロンにおいて、高出力記録を得た。また、種々のモード間相互作用を観測した。

### 高出力2次高調波発振

不要基本波モードとの競合が課題  
最適設計により、サブテラヘルツ帯  
2次高調波で最高記録 83 kW実証

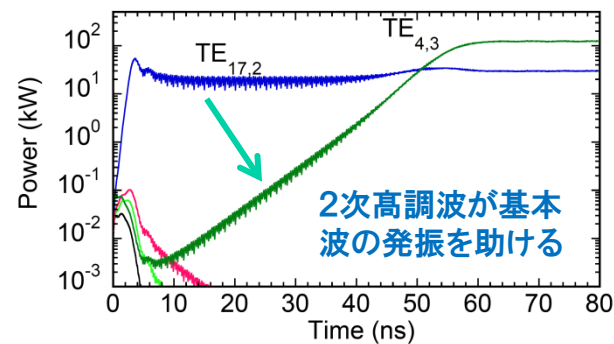
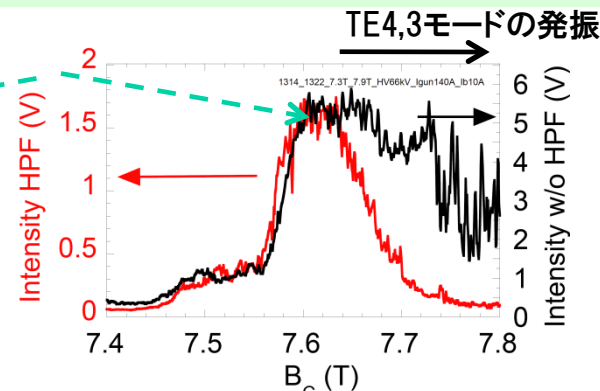
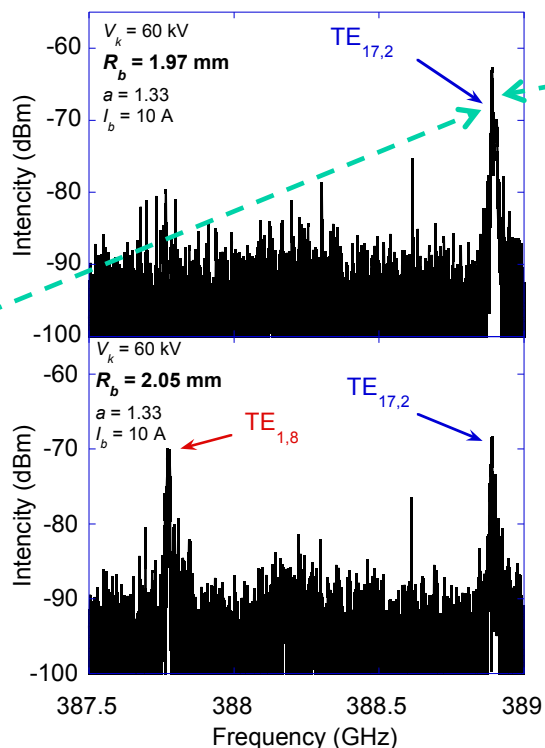
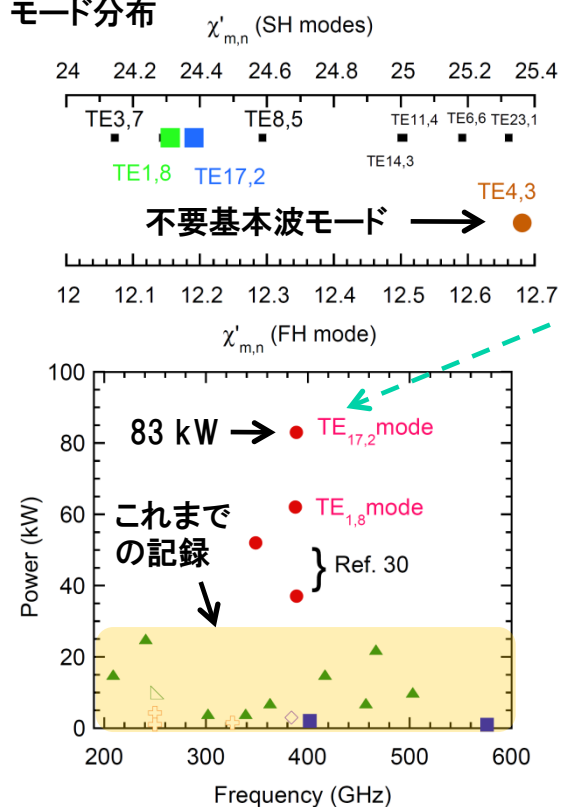
### 2次高調波モード同志の競合の観測

2次高調波の単独発振  
2モードの同時発振が実現  
弱く結合するモード間の相互作用

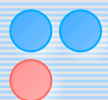
### 基本波モード同志の非線形発振

2次高調波の補助により、単独では  
発振できない硬発振領域基本波の  
非線形発振を初めて実証

### モード分布



電子ビームの位相バンチング(速度空間分布の変形)を介したモード間相互作用



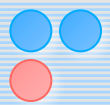
## 非平衡極限プラズマダイナミクス —その多様性と普遍性—

プラズマ物理学は多様な対象へと展開し、著しい発展を見せている。その応用は、脱CO2社会に貢献する核融合発電等の先進エネルギー、カーボンナノチューブやスーパーダイヤモンドなど新機能性物質創成による産業応用、大気圧プラズマによる滅菌等の医療応用の他、多方面への応用が期待されている。こうした多方面へ発展を遂げている多様なプラズマを「非平衡極限プラズマ」という共通学理から俯瞰する。様々なプラズマの独自の特徴および共通する普遍的な問題や機構を抽出し理解すること、固有のプラズマでの様々な方法を互いに適用することができれば学術としての更なる進展をもたらす新領域の開拓へとつながる。今回は、右に示す講演を準備しその特徴と普遍性を探る。それぞれの領域での最新のトピックスや将来展望を紹介し、新しい学術領域の創成への端緒とする。

シンポジウム提案  
伊藤公孝(核融合科学研究所)

### シンポジウム構成

1. 乱流プラズマの輸送と界面のダイナミクス  
九州大学 藤澤彰英 (30分)
2. 液相界面へのプラズマ構造転写による  
新機能ナノ物質創製  
東北大学 金子俊郎 (30分)
3. プラズマ・ラジカルの物理とその医療応用  
大阪大学 浜口智志 (30分)
4. パワーレーザーによる極限界面  
大阪大学 兒玉了祐 (30分)



## 乱流が引き起こす角運動量輸送 —実験室プラズマから宇宙プラズマまで—

シンポジウム提案  
横井 喜充(東大生産研)

### 背景と目的

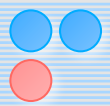
実験室および宇宙プラズマにおいて、プラズマ中に発生する乱流の異方性の為に、粘性によらない角運動量輸送が起こり、角速度勾配が発生する為に、さまざまな興味深い現象をされている。

磁場閉じ込めプラズマでは、外部からのトルク入力が無いのにプラズマが回転する「自発回転」が観測されている。一方、太陽プラズマでは赤道付近の角速度が極よりも大きいという「差動回転」、降着円盤では中心天体に近くなるほど角速度が大きくなるような「差動回転」が見られている。

この角運動量輸送を引き起こす共通な物理機構である「乱流の異方性によるレイノルズ応力」に注目し、粘性によらない角運動量輸送やその結果生じる渦構造形成の理解を目指したシンポジウムを提案する。

### シンポジウムの構成(案)

- 1.趣旨説明 居田克巳(核融合研)10分
- 2.「磁場閉じ込めトロイダルプラズマの自発回転」  
永岡賢一(核融合研)30分
- 3.「散逸性渦に関する基礎実験」  
田中雅慶(九大総理工)30分
- 4.「レイノルズ応力の実験観測」  
稲垣滋/永島芳彦(九大応力研)30分  
休憩10分
- 5.「降着円盤の角運動量輸送問題」  
松元亮治(千葉大)30分
- 6.「磁気圏電離圏の渦形成と角運動量輸送」  
藤本正樹(宇宙科学研究所)30分
- 7.「太陽の差動回転の問題」  
政田洋平(神戸大)/柴橋博資(東大理)  
/関井隆(天文台)30分
- 8.まとめ 常田佐久(天文台)10分



# シンポジウム

## 「プラズマ宇宙物理」3学会合同シンポジウム — プラズマ宇宙物理の新展開 —

提案者: 三好隆博(広島大)

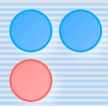
### 趣旨

第68回年次大会において領域2では、**地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会**の協力のもと、「プラズマ宇宙物理」3学会合同セッション(以下、合同セッション)を開催する。この合同セッションは、プラズマ物理の概念や研究手法、諸宇宙・天体プラズマ現象を縦横の軸として最新の研究成果を共有し、**3学会会員が相互に学術交流することを目的**としている。

本合同セッションでは、7つのサブセッションを設け一般講演を募集する。特に今回は、各サブセッション間での情報交換も十分に図れるよう、各サブセッションに関連し新奇な研究を展開している研究者を招き、**合同セッションの全参加者を一堂に会する「プラズマ宇宙物理」3学会合同シンポジウムを提案**する。本シンポジウムは、3学会会員間の最大の意見情報交換の場になると共に、プラズマ宇宙物理の新展開を俯瞰することにより、新たなる研究や概念を切り拓くための契機になると期待できる。

### シンポジウムの構成(案)

1. 趣旨説明  
安藤晃(東北大) 10分
2. 「粒子加速, 加熱, 相対論的プラズマ」  
天野孝伸(東大) 25分
3. 「乱流, 輸送, 非線形現象」  
井上剛志(青山学院大) 25分
4. 「MHD, 流体现象」  
吉川顕正(九大) 25分
5. 「ダストプラズマ, 弱電離プラズマ」  
小山孝一郎(国立成功大) 25分
6. 「原子分子過程」  
後藤基志(核融合研) 25分
7. 「観測・計測・関連技術」  
西野真木(宇宙研) 25分
8. 「シミュレーション技法」  
未定 25分



# シンポジウム

## ビーム物理領域との合同シンポジウム: 高電界粒子加速の展望

ビーム物理領域からの提案

### 提案理由

レーザーを使った高電界粒子加速の研究において10年程前に電子やイオンのモノエネルギー加速に成功した。その後、安定化、高エネルギー化、高ルミノシティ化、およびビーム駆動加速に関する研究が進められている。世界的にはPW級の大型超高強度レーザー導入競争が進んでいるが、我が国では、高安定超短パルス電子源やイオン源の開発、高ルミノシティを可能にする高繰り返しレーザー技術の開発などを中心に研究が進められている。本シンポジウム提案では、高電界粒子加速に関連する物理、ドライバー、応用等の第一線の研究者に講演していただき、今後の研究の方向について議論し、今後の発展に資することを目的とする。

### シンポジウムの構成(案)

1. プラズマ制御によるレーザー航跡場電子加速の安定化  
細貝知直@阪大
2. 誘電体粒子加速および航跡場による追加速実験計画  
吉田光宏@KEK
3. レーザーイオン加速  
西内満美子@JAEA
4. 高繰り返し超高強度レーザーにむけた基礎技術と今後  
問い合わせ中
5. 応用の立場からの要請  
未定(KEK, JAEAと相談するか?)

# 6) 「プラズマ宇宙物理」3学会合同セッション

## 第7回「プラズマ宇宙物理」3学会合同セッション

日本物理学会第68回年次大会 2013年3月26日(火)～29日(金)

場所: 広島大学 東広島キャンパス(広島県東広島市)

### 発表形式

一般講演(口頭のみ)+シンポジウム

### 第2キーワード(サブセッション)

プラズマ宇宙物理: 粒子加速, 加熱, 相対論的プラズマ

プラズマ宇宙物理: 乱流, 輸送, 非線形現象

プラズマ宇宙物理: MHD, 流体現象

プラズマ宇宙物理: ダスト(コンプレックス)プラズマ, 弱電離プラズマ

プラズマ宇宙物理: 原子分子過程

プラズマ宇宙物理: 観測・計測・関連技術(実験応用技術, 将来計画なども含む)

プラズマ宇宙物理: シミュレーション技法

### 世話人

物理学会: 安藤晃(東北大)、永岡賢一(核融合研)、三好隆博(広島大)、横井喜充(東大)

SGEPSS: 篠原育(JAXA)、杉山徹(JAMSTEC)、中村匡(福井県立大)、松清修一(九大)

天文学会: 犬塚修一郎(名大)、新田伸也(筑波技術大)、松元亮治(千葉大)、横山央明(東大)

## 6) 「プラズマ宇宙物理」3学会合同セッション(進捗状況)

拡大3学会合同セッション世話人(3学会合同世話人＋米田領域2副代表＋井領域2役員)にて協議を継続中

### 決定済みの事項

- ・ 発表形式
- ・ 第2キーワード

### 協議を継続中の事項

- ・ シンポジウム
  - ✓ 「プラズマ宇宙物理」3学会合同シンポジウム —プラズマ宇宙物理の新展開—
  - ✓ 乱流が引き起こす角運動量輸送 —実験室プラズマから宇宙プラズマまで—

### 今後の検討事項

- ・ 第2キーワード英語版
- ・ 第2キーワード分類表(サブセッションの詳細)
- ・ インフォーマルミーティングの日程および形式
- ・ アンケート調査
- ・ プログラム編成

### その他

- ・ 領域11との協力の可能性について

# 7) 講演プログラム変更申請について

## ・講演プログラム変更に関する論点

- プログラム変更の可否
  - ・ **私立大学**等は**国立大学**とは事情(講義に対するスタンス等)が異なる。
  - ・ 変更を認める場合は、**公正なルール**(内規)の策定、開示が必要。
  - ・ 変更申請が繰り返される場合、別途対策が必要。
- 講演希望日の事前調査の適否
  - ・ キャンセルが少なくなり、講演時間に空白がなくなる。
  - ・ **プログラム編成時の調整が極めて困難**である。
  - ・ 講演申し込み後の予定変更もある。

## ・内規(案)

- **原則としてプログラムの変更申請は受け付けない。**
- ただし、次のような特別な事情がある場合、変更を認めることがある。
  - ・ 他分科、他学会と講演日程が重なっている。
  - ・ 講義等の休講、または代講が不可能である。
  - ・ 所属機関の公式行事の実務担当者である。
  - ・ その他、領域2役員会が認めるもの。
- ただし、プログラム編成の都合上、希望に沿えないこともあります。
- プログラムの変更が認められた場合、領域2役員会担当者の指示に従って、速やかに変更手続きを行ってください。

## 8) 物性分野 領域の略称・表示に関する提案

- 物性分野の領域略称を新たに設定する。(2011年11月12日の理事会決定)  
領域番号制度の導入(2000年9月)・・・旧分科会の硬直性を打破する意図  
領域番号制度の弊害・・・他の領域の内容がわかりにくい。領域を再編成  
しようとする、あとのすべての数字に影響

 領域番号制の見直し提案(理事会より)

- 年次大会の領域インフォーマルミーティング等で領域の意見を集約して、年次大会終了後速やかに連絡。領域委員会(2012年5月)で、各領域の意見を集約した結果を参考に議論。

- 賛成、反対の意見多数

賛成する領域・・・領域2、領域3、領域8

条件付き賛成・・・領域4、領域7、領域9、領域13

反対する領域・・・領域1、領域6、領域10、領域11、領域12

判断不能・・・領域5

- 主な意見

略称文字数が5文字では少ない。もともと略称が難しいから番号にした経緯があったはず。

異なった分科が入っている場合簡単な略称では表示できない。再編につながるのであれば反対。少人数の分野にも十分な配慮が必要。 など

# 8) 物性分野 領域の略称・表示に関する提案

理事会からの再提案 (H24. 9)

1. 正式には領域番号制を残すが、領域名や領域略称をつけることを理事会としては推奨します。
2. 文字数制限を大幅に緩和した領域名称とプログラム掲載用の略称を改めて募ります。領域名や領域略称をつける領域は、プログラムなどにそれらを積極的に使用することとします。

現在の領域2

領域2 ... プラズマ、放電

プラズマ基礎・プラズマ科学・核融合プラズマ・プラズマ宇宙物理

## ■ 略称名の提案 (最大5文字まで)

「プラズマ」 → 今後この名称を領域略称として使用する。

## ■ 括弧書きでキーワードをつけることが出来る。(24文字まで)

(**プラズマ科学・核融合プラズマ・プラズマ宇宙物理**) (23文字)

## ■ アルファベットによる表記の検討・報告・登録

“JPS\_DPP” または “JPS\_PLASMA”

## ■ 領域2は、前回、領域会議で決定した案につき、変更なし。

# 9) PLASMA2014開催に向けて

## PLASMA CONFERENCE 2011

会期:平成23年11月22日(火)~25日(金)  
場所:金沢県立音楽堂



今後、3年ごとをめどに開催を検討。  
プログラム編成、実施体制など解決  
すべき課題も多い。

## 運営主体 ……プラズマ科学連合運営委員会

運営委員長 田中和夫(阪大) プラズマ・核融合学会 上杉(金沢大), 金子(東北大)  
日本物理学会 菊池(JAEA), 古川(鳥取大)  
応用物理学会 白谷(九大), 堀 勝(名大), 栗原一彰(東芝)

主催団体 プラズマ・核融合学会  
日本物理学会(領域2)  
応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会

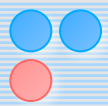


次回、物理学会領域2が  
幹事学会として準備。

## プログラム等検討委員会

物理学会: ○安藤 晃(東北大)、米田仁紀(電通大)、居田克巳(核融合研)、古川 勝(鳥取大)  
プラズマ・核融合学会: 米田仁紀(電通大)、上杉喜彦(金沢大)、坂本慶司(JAEA)  
応用物理学会: 寺嶋和夫(東大)、野崎智洋(東工大)  
プラズマ科学連合: 田中和夫(阪大)

- 学会間連携、会議全体構成を検討。各学会同士の連携を進め企画組織委員会を編成。
- H24年内に委員会を開催。セッション案を想定して検討。
- 物理学会領域2内に運営組織委員会を編成。



# 関連報告, その他

# 1) 日本学術会議報告 (伊藤早苗教授(九大応力研))



日本学術会議

SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

わが国の科学者の内外に対する代表機関

# 2) APPC-12 に関する報告

## APPC-12 会議、2013年7月14-19日、千葉幕張メッセ

**Organizers**

**AAPPS**  
Association of Asia Pacific Physical Societies

**European Physical Society**  
more than ideas  
European Physical Society (for ASEPS)

**Hosts**

**JPS**  
The Physical Society of Japan

**AP**  
The Japan Society of Applied Physics

Registration Fee (Banquet fee is included)		
	On or before June 15, 2013	After June 15, 2013
Regular	30,000Yen	35,000Yen
Student	15,000Yen	15,000Yen

For more information, please contact  
APPC12 Secretariat  
JPS Office  
Yushima Urban Building 8F, 2-31-22 Yushima,  
Bunkyo-ku, Tokyo 113-0034, Japan

[APPC12@jps.or.jp](mailto:APPC12@jps.or.jp)  
[www.jps.or.jp/APPC12/index.html](http://www.jps.or.jp/APPC12/index.html)  
TEL +81-3-3816-6201 FAX +81-3-3816-6208

**First Announcement**  
**APPC12 & ASEPS**

**APPC12**

Join APPC12  
Feel Frontier of Physics  
in Asia and Pacific

12th Asia Pacific Physics Conference  
of AAPPS  
Asia Europe Physics Summit

July 14-19, 2013  
International Conference Hall  
Makuhari Messe, Chiba, JAPAN

- ・主催：AAPPS, 物理学会, 応物学会
- ・参加費：3万円(学生:1.5万円)  
(含むバンケット、論文投稿費)
- ・参加者想定：800名以上
- ・分野：A:物性/応物、B:原子核  
C:放射光/光学、D:プラズマ科学
- ・プログラム委員長：笹尾先生
- ・基調講演：C.N.Yan, 小林誠、  
Liu Chen (プラズマ物理)  
P.K. Chu (バイオ医療)  
柴田一成 (太陽フレア)
- ・プラズマ科学分科会：(200-300名)  
D1: プラズマ物理  
D2: プラズマプロセッシング  
D3: 高強度レーザープラズマ  
D4: 天体・惑星圏プラズマ
- ・招待講演：11-12月までに決定
- ・一般講演：口頭発表、ポスター  
1月～4月10日
- ・講演採否通知：5月2日
- ・Yan賞(45歳以下、推薦締切9/30)

# 2) APPC-12 に関する報告

## 12<sup>th</sup> Asia-Pacific Physics conference (APPC-12): 永宮正治

### Where is Makuhari ?



Makuhari Messe is readily accessible from both Narita International Airport and Haneda Airport (Tokyo International Airport). Getting to Makuhari Messe takes about 40 minutes by bus or train from Narita International Airport and about 40 minutes by Limousine bus from Haneda Airport.

The recommended public transportation for visitors from Narita International Airport is the Limousine bus, as there are no transfers necessary.

10 minutes walk from Kaihin-Makuhari Station of JR (Japan Railway) Keiyo Line train to Makuhari Messe.

Tokyo Station (35min), Tokyo Disney Resort (15min) and Akihabara (45min) are easily accessible by train from Kaihin-Makuhari Station.



### Chairman's Welcome

We will organize the APPC12 on July 14-19 of 2013. After the birth of APPC, the APPC12 is the 30th anniversary. During the past 30 years many areas in physics have been changed. In particular, the Asia and Pacific regions have played a significant role in physics. This APPC12 is a good chance to review the past 30 years as well as to update the present progress in physics in Asia and Pacific regions. In addition, we have new trials at this meeting. The first one is that the collaboration with European Physical Society was installed for one day, as ASEPS meeting. In the second, the Association of Asia Pacific Physical Societies (AAPPS) decided to start its Division structure and this APPC12 is a good opportunity to utilize it. In the third, a new form of C, N, Yang Award started to be tried from this APPC12 meeting.

This is the first APPC meeting in Japan. We hope to have as many participants as possible. We welcome for your participation in this APPC12 Conference which is held in Chiba in 2013.

Please join us.

On behalf of the Organizing Committee



Shoji Nagamiya

### Chairs

- Organizing Committee Chair: Shoji Nagamiya (J-PARC)
- Organizing Committee Vice Chair: Tohru Motobayashi (RIKEN)
- Program Committee Chair: Mamiko Sasao (Doshisha University)
- Program Committee Vice Chair: Akira Fujiwara (NTT BRL)
- ASEPS Co-Chairs: Gui Lu Long (Tsinghua University), Maciej Kolwas (EPS)
- C.N.Yang Award Chair: Yoshio Kuramoto (Tohoku University)
- Secretary: Haruo Nagai (JPS)

### APPC Subjects

- Condensed Matter / Applied Physics
- Atomic and Molecular Physics / Nuclear Physics / Particle Physics / Astrophysics
- Optical Physics / Synchrotron Radiation / Neutron Scattering
- Plasma Science
- Interdisciplinary Research (Sessions of Women in Physics and Physics Education are included)

### ASEPS

ASEPS discusses on physics research in the context of collaboration between Europe and Asia-Pacific region.

### Outline of Conference Schedule

Date	AM	Poster & Lunch	PM	Evening
July 14		AAPPS Meeting		Welcome Drink
July 15	Opening & Plenary	Poster & Exhibition	Public Lectures / Topical Sessions	
July 16		Poster & Exhibition	ASEPS / Topical Sessions	Banquet
July 17	Plenary	Poster & Exhibition	Topical Sessions	
July 18	Plenary	Poster & Exhibition	Topical Sessions	
July 19	Plenary & Closing			